



**松崎 益徳 Masunori Matsuzaki**

山口大学医学部附属病院長  
山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学教授  
日本心臓病学会理事長

1972年山口大学医学部卒業。内科学、特に循環器内科学を専攻。米国カリフォルニア大学サンディエゴ校循環器科研究員を経て、1992年山口大学医学部内科学第二講座教授。2002年山口大学大学院医学研究科器官病態内科学教授。2005年4月山口大学医学部附属病院長。循環生理学、心臓超音波医学、動脈硬化、心不全病態学を研究。1978年に食道内から心臓を検査できる経食道心エコー法を開発。2004-2006年日本超音波医学会理事長、現在、日本循環器学会理事、日本心不全学会理事、日本動脈硬化学会理事、2008年日本循環器学会学術集会会長。

■生活習慣病から守る —循環器内科医の立場から—

近年のライフスタイル、特に食文化の急速な欧米化は、日本人の疾病構造を大きく変化させている。糖尿病患者、高コレステロール血症患者の急増は、従来、先進国の中では最も低い発症率であった日本人の心筋梗塞患者の増加を招き、また、臓器別の悪性腫瘍の発症の欧米化も著しい。これらに対し、専門医はどう取り組むべきかを日本人を対象とした大規模臨床研究から得られたデータを中心に述べてみたい。